

氏名	尾 崎 謙 一		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1535 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年12月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学 位 論 文 題 目	弁膜疾患における心機能と心筋超微細形態学的変化 —左室造影と術中生検心筋所見との対比—		
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三	教授 中山 沃	教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

弁膜疾患41例の術前後の心機能およびその改善度を左室造影法により評価した。更に術中生検した左室心筋の電顕的観察を行い、心筋の形態的变化が心機能に及ぼす影響について検討した。心筋の電顕像から変性度 スコアを算出し、保全群、変性群に区別した。

1. 術前において、左室のポンプ機能、心筋機能および形状指標は、心筋保全群で変性群に比し良好に保持されていた。
2. 術後でも、ポンプ機能、心筋機能および形状指標は、心筋保全群で変性群に比し有意に良好もしくは良好な傾向が認められた。
3. 術後のポンプ機能 EF および心筋機能 MNSER (mean normalized systolic ejection rate) と術前心筋変性度 EM-score との間には有意な負の直線相関が認められた。
4. 術後のポンプ機能、心筋機能および形状指標の術前値に対する改善度は保全群においてより良好であった。
5. 術後のポンプ機能改善度 $\Delta EF / \text{score}$ および心筋機能改善度 $\Delta MNSER / \text{score}$ と術前心筋変性度 EM-score との間に有意な逆指数相関が認められた。
6. 術前の左室造影によるポンプ機能 EF と拡張、収縮形態 $\Delta (D/L)$ の組み合わせにより、心筋変性群をある程度判別可能であった。このことは至適手術時期の決定、予後の予測に有用と考えられる。

論文審査の結果の要旨

心臓外科の進歩にもかかわらず、術後心機能改善不良の弁膜症患者が少なくない。本研究者は弁膜疾患41例につき術前および術後1-2カ月目に施行した左室造影法による各種の心機能の指標と術中生検で得た左室心筋の電顕像とを対比している。術前のポンプ機能、駆出率（EF）と拡張、収縮形態、円形度指数変化率 Δ （D/L）との2つの指数から、心筋変性の程度や手術後の改善の度合の予測が可能なことなど、多くの知見をえている。これらは臨床上、極めて有用であり、本研究者は医学博士の学位を得る資格ありと認める。